Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-10-06

Nursing Care Time for Newborns during Hospitalization in a Mixed Hospital Ward with an Obstetrics Department

Nakai, Kaori

(Degree)
博士（保健学）

(Date of Degree)
2020-03-25

(Date of Publication)
2021-03-01

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲第7742号

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007742

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

（様式３）

論文内容の要旨

専攻領域　看護学領域

専攻分野　母性看護学・助産学分野

氏　　名　中井　かをり

論文題目（外国語の場合は，その和訳を（　）を付して併記すること。）

Nursing Care Time for Newborns during Hospitalization in a Mixed Hospital Ward with an Obstetrics Department
（産科混合病棟における入院期間中の新生児への看護時間）

論文内容の要旨（1,000字～2,000字でまとめること。）

【背景】日本の出生数は 1991 年以降緩やかに減少傾向にあり、合計特殊出生率は 1.42（2018 年）と低迷しており、2019 年の出生数は 86 万 4 千人と推計されている。出生の場は、病院が 55.1%、診療所が 44.3%を占めている（厚生労働省人口動態調査）。新生児の約半数が出生する病院では、2003 年に医療費の診療報酬においてDPC(Diagnosis Procedure Combination)制度が導入され、産科病棟は分娩予定者のための空床確保が困難となり、病床利用率を上げるために混合病棟化していった。現在分娩は、病院において約 8 割が産科を含む複数の診療科から構成される混合病棟で実施されている(日本看護協会 2013)。日本で出生する新生児のおよそ 9 割はローリスクな新生児である（厚生労働省 2008, UNICEF2017)。疾患のない新生児は正規の診療報酬により患者一名分としてカウントされないために、健康な新生児に対する看護人員配置基準がなく看護人員配置が不十分で、新生児へのケアが不十分である。産科混合病棟では、正常・異常の母児と他科患者が入院しており、健康な母児は生命に直結する患者の優先度により看護が十分受けられない可能性が生じる可能性が高い。これまでに、日勤帯 8 時間の新生児への看護時間を測定した研究（中井ら，2018）はある。新生児への安全・安楽な入院生活をサポートし、環境を整え質の高い新生児看護を提供するための新生児の 24 時間かつ入院期間のすべてを網羅した看護時間を明らかにした研究は実施されていない。
【目的】正常・異常分娩前後の妊産褥婦ならびに新生児と他科患者が入院する産科混合病棟において新生児に提供している 24 時間の看護時間を明らかにする。
【方法】産科混合病棟内における母児異室制新生児室の 9 台の新生児コットに 2 個の無線ビーコンを設置した。看護師はスマートフォンを携帯し、新生児コットへの接近情報を看護時間として自動計測することにより、24 時間のデータ収集をした。新生児に提供している直接ケアのみを測定し、児に対して必要とされるカンファレンスや児の扱いに対する保健指導時間は新生児看護に含まれていない。
【結果】45 日間の測定を行い、調査期間中に出生した 30 名の新生児のうち、データ欠損のない 17 名（経腟分娩による出生 15 名，帝王切開分娩による出生 2 名）のデータを分析した。新生児の分娩直後から退院までの病院平均滞在時間は 5.7 日であった。出生から退院までの新生児への平均看護時間は 533.8 分であった。新生児出生時間を起点とし、看護時間を 24 時間ごとに分類した結果、24 時間ごとの新生児看護時間は、生後 0-23 時間が 157.6 分で最大値であった。その後の看護時間は漸減し、生後 96-119 時間の看護時間は 59.3 分で最小値であった。生後 0-23 時間の看護時間は、他の看護時間帯と比較して看護時間が長く、有意差がみられた(生後 24-47 時間，p=0.04; 生後 48-71 時間,p<0.001; 生後 72-95 時間,p<0.001; 生後 96-119 時間,p<0.001)。生後 24-47 時間は生後 48-71 時間(p=1.00)、生後 72-95 時間（p=1.00)、生後 96-119 時間(p=0.15)において、生後 48-71 時間は生後 72-95 時間（p=1.00)と生後 96-119 時間（p=0.12)において、生後 72-95 時間は生後 96-119 時間(p=0.88)において有意差はみられなかった。

バイタルサイン測定回数を 24 時間ごとに分類した結果、平均測定回数は生後 0-23 時間が 5.6 回、生後 24-47 時間が 2.5 回、生後 48-71 時間が 2.5 回、生後 72-95 時間が 2.3 回、生後 96-119 時間が 2.5 回であり生後 0-23 時間は他の時間帯のいずれに対しても有意差がみられた。
【考察】OECD の各国間の産後入院期間比較によると日本での産後入院期間は 5.8 日であり、本研究結果とほぼ同じであった。諸外国の産後入院期間は国によりさまざまで、日本よりも短期間であることが多い（OECD2015)。病院の滞在時間が長すぎると母児への感染リスクは増す（Cegolon2019)。しかし、母親が家庭において育児を行うために必要な育児技術の習得をする時間が必要である（Benitz2019）ため、ある程度の滞在時間が必要であるといえる。

24 時間ごとの看護時間は生後 0-23 時間の間にケアが必要であることを表している。新生児の急変例の 32%は出生後 2 時間以内に発生し、84%は生後 48 時間以内までに発生している。母児の状態が落ち着けば急性期看護の必要はなく、育児技術の習得が進むように教育的入院に切り替えるべきであり、教育をする看護人員が必要である。本研究結果は、新生児が健康であっても看護人員を必要とし、新生児の安全と安楽を保証し、母親が育児に順調に取り組むことができるように対応する看護人員配置の必要を示唆しうる基礎データとなりうると考える。

指導教員氏名：齋藤いずみ

（別紙１）

論文審査の結果の要旨

氏　名	中井 かをり		
論文題目	Nursing Care Time for Newborns during Hospitalization in a Mixed Hospital Ward with an Obstetrics Department （産科混合病棟における入院期間中の新生児への看護時間）		
審査委員	区　分	職　名	氏　名
	主　査	教授	齋藤　いずみ
	副　査	教授	松尾　博哉
	副　査		印
	副　査		印

要　旨

本研究は、産科混合病棟において、新生児に実施している看護時間を可視化することを目的に実施された。方法は、病棟内における母児異室制新生児室の新生児コットに、2 個の無線ビーコンを設置、看護師はスマートフォンを携帯し、新生児コットへの接近情報を看護時間として自動計測し、24 時間にわたりデータ収集を児の退院まで測定した。結果として、新生児の分娩直後から退院までの病院平均滞在時間は5.7 日、出生から退院までの新生児への平均看護時間は533.8 分であった。新生児出生時間を起点とし、看護時間を24 時間ごとに分類した結果、生後0-23 時間が157.6 分で、最大値で他の24時間と比較し有意に長かった。バイタルサイン測定回数を24 時間ごとに分類した結果、平均測定回数は生後0-23 時間が　5.6 回で、他の時間帯より有意に多かった。新生児の急変例の３２％は出生後2 時間以内に発生していることから、生後0-23 時間の間のケアが、特に重要で必要とされる。本研究は産科混合病棟において、出生から退院時までに、新生児に実施している看護時間や24時間ごとの看護時間・バイタルサインの測定回数を初めて可視化した価値ある知見と考えらえる。以上より、学位申請者の中井かをりは、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。

掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号），頁，発行（予定）年を記入してください。

Nursing Care Time for Newborns during Hospitalization in a Mixed Hospital Ward with an Obstetrics Department・Kaori Nakai, Izumi Saito, Kayo Osawa・ Kobe Journal of Medical Sciences・2020, In press.